

議 事 概 要

| | |
|--------|--|
| 1 会議名 | 令和6年度第3回太宰府市地域公共交通活性化協議会 |
| 2 開催日時 | 令和7年2月13日（木）14：00～15：00 |
| 3 開催場所 | 太宰府市役所 4階大会議室 |
| 4 出席者名 | <p>【委員】</p> <p>原口委員（副会長）、高橋委員、田代委員、池田委員、中井委員、松尾委員、森本委員、富士原委員、齋藤委員、山口委員、寺町委員（会長）、草場委員、八尋委員</p> <p>【関係人】</p> <p>辻氏（福岡運輸支局）、柚井氏（九州運輸局）、石川氏（福岡県）、長谷川氏（バリューマネジメント（株））</p> |
| 5 議題 | <p>【議事】</p> <p>議題 路線バス輸送サービス変更の申し出に係る協議について</p> |
| 6 内容 | |
| 事務局 | (開会挨拶) |
| 原口副市長 | (挨拶) (傍聴人入室) |
| 事務局 | 議事に入る。進行については、太宰府市地域公共交通活性化協議会規則第6条の規定により寺町会長にお願いする。 |
| 寺町会長 | <p>議題は「路線バス輸送サービス変更の申し出に係る協議について」となる。</p> <p>本日も公共交通で市役所に来たが、西鉄五条駅で多くの方がバス停の前にいた。コミュニティバスと路線バスが来る時間帯であったのだろうが、公共交通を利用している人が一定数はいるということと、太宰府市は公共交通が充実しており住みやすいまちなんだと改めて認識した。</p> <p>これまで本協議会で議論してきた路線バスの廃止申出について、事務局が交通事業者と協議し検討を重ねてきた内容について説明をお願いしたい。</p> <p>【議題 路線バスの輸送サービス変更の申し出に係る協議について】</p> |

| | |
|------|---|
| 事務局 | (資料説明) |
| 寺町会長 | <p>市民にとってもニーズのある路線であり、路線のあり方について検討することがとても重要となることがよくわかる。</p> <p>不採算路線を運行し続けるということは、必ず誰かが赤字を負担しなければならない。現状、民間事業者に赤字を押し付ける時代ではなく、税金で補填しているぐらいなのだと認識を利用者も持っておく必要があると考える。</p> <p>行政は、いろんなサービスを市民に幅広く提供していく必要があるため、公共交通に多くの税金を投入してアンケート調査結果をすべて網羅するのは難しいかと。</p> <p>その辺は、ソフトランニングできるところを目指すのが本協議会の役目になる。</p> <p>整理させていただくと資料 1P26 に記載のある星ヶ丘線に関する方向性については、事務局と交通事業者の努力によって、廃止期限が令和 8 年 3 月 31 日まで延長する方向で協議・検討されているため、星ヶ丘線については時間をかけて検討していく方向でよいか委員皆様方からご意見を賜りたい。</p> <p>資料 1P28 に記載のある南ヶ丘線に関する方向性については、太宰府市民への悪影響は最小限であり、減便となるものの運転士 1 人で可能な運行になっていると考えられる。そういう協議・検討内容について委員皆様方からご意見を賜りたい。</p> <p>他の自治体の交通会議でも朝のピーク時間と最終便を増やしてほしいというニーズをいただくことが多いが、運転士は朝早くから夜遅くまで働くのは難しい。運転士の人数に余力があれば早番と遅番で分けることができるが、人手不足の状況だと簡単にできない。運転士不足と高齢化は太宰府市でも問題となってきている。</p> <p>交通事業者に歯を食いしばってやってもらうにも運転士がいないのであればできないことも出てくる。利用者に不便となることもあるため、最も良い解決策ではないが、廃止と比較するとより良い解決策ではある。</p> <p>説明内容について、ご質問等あるか。</p> |
| 関係人 | <p>南ヶ丘線に関して確認したい。</p> <p>大野城市内の区間を廃止とする方向で検討しているが、筑紫野市や太宰府市から西鉄下大利駅へ行かれる需要はどれくらいあるか。</p> |
| 事務局 | <p>南ヶ丘線の利用者における、西鉄下大利駅へ行かれる太宰府市民や、筑紫野市、大野城市の方の利用については、3 市に跨る路線であることや、本市内においては近くのエリアをまほろば号が運行していることもあり、市民に特化しての利用人数の把握は難しい。</p> <p>ただし、朝夕の学生利用が多い状況は把握している。</p> |
| 寺町会長 | <p>廃止の区間は 2 バス停になるため、学生であれば徒歩は可能な距離かと。</p> <p>資料 1P20 のアンケート調査結果の自宅からバス停までの移動手段について、非常に興味深い内容があった。本協議会は基本的に太宰府市民をターゲットにしていくが、市</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>外から通勤・通学で来られている方で徒歩以外の方がそれなりに利用している。交流人口ということになるのかわからないが、昼間に人で賑わっているということは非常に重要となる。住まわれている方々の移動手段を確保することも大事だが、市外から来られている方々が路線バスを利用しているため、太宰府市を来訪先として選んだ選択肢の1つとして公共交通のネットワークが充実しているためと解釈できる。</p> <p>資料1P16の利用時間帯も重要な資料となる。今回、南ヶ丘線については当面の間は代替措置で運行することとなる方向性だが、星ヶ丘線に関しては1年の猶予期間終了後は、劇的に変化する可能性がある。1年後を見据えたときに、特に平日の朝夕の時間帯の利用実績の認識をしたうえで代替交通手段を検討しないといけないことを肝に銘じておく必要がある。</p> <p>過去に公共交通で最終便の後に通常料金の2倍以上で深夜便が運行していた。その考え方は今後柔軟に取り入れていく必要があるかもしれない。この利用時間帯のグラフでは、利用者の労働時間によって朝夕にピークを迎える、ニーズがあるためサービスを提供していく必要がある。それ以外の時間帯の移動ニーズに対し、ピーク時間と同じサービスレベルや料金でいいのかという議論の際、現行の路線バスであれば利用が多い時間は行政が負担しても公共交通を維持する必要があるが、それ以外の時間帯は例えば既存のタクシー利用も選択肢となる。早朝から深夜まで運行することなど選択肢が多いことはいいが、いつでも公共交通に乗れる時代は終わりを迎えていた。</p> <p>行政がいろんなサービスを市民に幅広く提供していく観点から、ピーク時間帯以外については、料金を含めたサービスレベルを今までと同じにできないことも出てくるといった視点を持っておく必要がある。</p> <p>ピーク時間帯の利用が多いことから事務局は既に1年後に向けての検討を進めているため、次年度以降の本協議会に代替交通が示されると認識している。</p> |
| 委員 | <p>代替交通手段を考える際、自助・共助・公助ということが多くの分野で取り入れられている。</p> <p>これまでの社会は自助・公助を主に取り組んできた。交通事業者の自助も赤字であり、行政の公助も限界を迎えていくため、これからは共助の部分が重要となる。</p> <p>共助もどこまでの範囲とするか議論が必要だが、例えば困っている地域に焦点をあてて、星ヶ丘線沿線でいえば約2,000人いるが、この中で運転士の経験をされたことがある方が何人いるのか、そして大型免許を持っている方がどれぐらいいるのか、そういったところで協力できないか、あるいは減便されると毎日の暮らしに影響があるため危機感を持ってもらい共助につなげていくような動きや仕組みづくりが必要ではないか。</p> |
| 寺町会長 | <p>委員ご意見の共助という視点はとても重要となる。</p> <p>個人的意見だが、共助にはいくつかの手法がある。</p> <p>1つは委員のご提案あった地域の中に免許を持っている潜在的な人材を発掘していく場合の共助も大事な取組みとなる。</p> <p>もう1つは事務局が実施したアンケートのように地域の方が困っている、どうにか</p> |

| | |
|------|--|
| | <p>してほしいと声をあげて、具体的にどういうことが困っている、どれぐらいの人数が困っているというような情報を地域が調べるといったこと。</p> <p>今回については、事務局や交通事業者がアンケート調査を実施したが、方法問わず時間と費用を要し、無償でできることはない。事務局は、当然のようにアンケートの実施結果を本日説明したが、私はこのアンケート調査の実施にすごく感謝している。申し上げたように時間と費用を要するにも関わらず、事務局がアンケート調査を実施したのは現行の公共交通がなくなることに対し、行政の責任を果たすため事務局が担ったものと考えられる。</p> <p>委員のご意見を仮に星ヶ丘線沿線に活用するのであれば、地域資源の人材発掘はとても重要な視点となる。地域住民が利用者の方へニーズを把握するためのアプローチをしてもいいかもしれない。言い方が正解ではないかも知れないが、地域住民の意識、やる気を確認するのも行政として必要となってくる時代かもしれない。</p> <p>果たして、公共交通空白地域をすべてなくすことができるのか。</p> <p>今、バス路線がないところに公共交通がどうあるべきかと聞かれたことがあるが、財政的に余力があるのであれば公共交通を行政が責任をもって整備するように助言した。しかし、地域からも困っているという声がないという場合は、その場所を選んでお住まいでの車移動している方が大多数。行政が財政的に困っているにも関わらず、そういった場所にまで行政が積極的に支援に出るべきか、さきほど申し上げた地域の方の意識を大事に確認していかないと、どこにでもバス路線を整備できるような状況ではないと考えている。</p> <p>委員のご意見を踏まえると、地域住民の意識がどういう状況なのか含めて将来のあり方を考えしていく共助の手法は2種類あるのかもしれない。</p> |
| 事務局 | <p>寺町会長及び委員から貴重なご意見を賜ったので、今後の検討に際し参考としていきたい。</p> |
| 寺町会長 | <p>ほかにご意見等はないか。</p> <p>よろしければ、私から最後に委員皆様方に確認させていただきたいと思う。</p> <p>まず、星ヶ丘線の廃止期限が1年間延長する方向性で協議が整いつつあると先ほど事務局から説明を受けた。</p> <p>それから、南ヶ丘線については、関係する自治体と交通事業者との協議によって、運行区間を一部変更することで存続していくが、存続することで一部の区間については、運行されないことも生じる内容であった。</p> <p>今回の事務局の説明に対して、報告書を提出する必要があるため、本協議会として星ヶ丘線及び南ヶ丘線に関する方向性に了承することでよろしいか。</p> <p>(異議なし)</p> |
| 寺町会長 | <p>委員皆様方から異議がなかつたため、了承とする。</p> <p>太宰府市地域公共交通活性化協議会規則第7条に基づき、交通事業者はこの結果を</p> |

| | |
|-------|--|
| | <p>尊重し、誠実な実施について努めていただきたい。</p> <p>最後に委員皆様方から何かご意見等ないか。</p> |
| 原口副会長 | <p>西鉄路線バスの廃止については、沿線住民をはじめ、市外利用者も含め甚大な影響を受けることから、西鉄との包括連携協定やこれまでの多岐にわたる取組も踏まえ、様々なレベルで、実情を考慮した特段の配慮をお願いし、これまでの交通体系の存続などに向け協議を重ねてきた。</p> <p>これまで、西鉄からバス利用者の乗降状況など、データの提供を受けての分析、及び利用者アンケート調査、並びに沿線自治会長や県立高校へ可能な限りの情報提供や説明に努めてきた。</p> <p>そして、今後の持続可能な交通体系について、他自治体で実施されている公共交通施策の調査・研究、及び他の交通事業者からの情報収集、並びに民間事業者の新技術・新サービスの調査など、あらゆる可能性を想定して検討を重ねている。</p> <p>現時点において、星ヶ丘線の一部区間廃止については、廃止期限を令和8年3月31日まで延長する方向で協議が整いつつあるが、地域公共交通を取り巻く環境が更に厳しくなることが想定されるため、調査・研究・情報収集を進めて、今後の方向性を検討していきたいと考えている。</p> <p>また、南ヶ丘線の一部区間廃止については、本市をはじめとする沿線自治体と西鉄との協議により、西鉄二日市～平田の区間を可能な限り存続する方向となつたが、西鉄におかれましては、地域住民等に不便をきたさないよう、他の路線との調整等の特段の配慮及び丁寧な対応をお願いしたい。</p> <p>本日、星ヶ丘線及び南ヶ丘線の方向性について、委員皆様方から了承いただいたため、西鉄におかれましては、公共交通の存続に引き続きご理解ご協力いただきたい。</p> <p>委員の皆様方には、今後も具体的な検討を進めるにあたって忌憚の無いご意見を賜りたい。</p> |
| 寺町会長 | <p>南ヶ丘線については、資料2のとおり福岡県バス対策協議会へ協議結果を報告する必要があるため、本日の委員皆様方からのご意見等を踏まえ、事務局にて作成をお願いしたい。</p> <p>また、星ヶ丘線については、今後も継続して本協議会にて委員皆様方からご意見を賜りながら具体的な検討を実施していくこととする。</p> <p>特にご意見等ないようであれば、本日の議事を終了するがよろしいか。</p> <p>(意見なし)</p> |
| 寺町会長 | なければ進行を事務局へお返しする。 |
| 事務局 | (閉会挨拶) |